● **タイトル**

『ものづくりと設計，日本の CAE どうする』

－設計に CAE は本当に役立っているのか？－

● **日時**

9 月 19 日（金）　9:00-12:00

● **趣旨**

本ワークショップでは、設計における CAE の役割と、CAE 活用の問題点に対する認識を共有するとともに、その問題解決にむけた取り組みについて議論します。

設計者は、かつては計算尺を用いて設計仕様や技術的方向性を検討していましたが、現在では、CAE を用いて飛躍的に精度の高い仕様を検討することが可能になりました。しかしながら、CAE ツール、3D CAD、Digital システムのライセンス料が高価であることや、オペレーション対応の CAE エキスパートが増加したことにより、設計者が自ら CAE を駆使しながら仕様を検討する機会が減少しています。一方、欧米では設計のポテンシャルを向上させるために、CAD/CAM/CAE/DMU の垣根を廃してこれらを同一の場で活用する VE（Virtual Engineering）の環境が整いつつあります。

道具が高い、道具を十分に活用できていない、教育体制が整備させていないなど、設計現場はさまざまな問題を抱えており、これらの問題を解決し、日本の設計ポテンシャルを高めるためのシナリオは未だ明確に描かれていません。

本ワークショップでは現状の設計での CAE 活用の姿を中心に情報共有し、今後の効果的活用戦略の足がかりとなるような議論が出来ればと考えています。皆さまのご参加を心よりお待ち申し上げます。

● **アジェンダ**

9:00-10:00　講演

司会：内田孝尚（株式会社本田技術研究所）

講演者：

松本敏郎（名古屋大学大学院工学研究科機械理工学専攻・教授）

大薗耕平（元株式会社本田技術研究所・主任研究員）

角谷治彦（三菱電機株式会社先端技術総合研究所機械基盤技術部フリクション・機構グループ）

10:00-10:10　休憩

10:10-11:30　パネルディスカッション

モデレータ：
木見田康治（首都大学東京大学院システムデザイン研究科・助教）
渡辺健太郎（独立行政法人産業技術総合研究所サービス工学研究センター・研究員）
パネリスト：
松本敏郎（名古屋大学大学院工学研究科機械理工学専攻・教授）
下田昌利（豊田工業大学先端工学基礎学科・教授）
西脇眞二（京都大学大学院工学研究科機械理工学専攻・教授）
大薗耕平（元株式会社本田技術研究所・主任研究員）
角谷治彦（三菱電機株式会社先端技術総合研究所機械基盤技術部フリクション・機構グループ）
内田孝尚（株式会社本田技術研究所四輪 R&D センター開発推進室 CIS ブロック・シニアエキスパート）

11:30-11:40　まとめ